

シニアのための
マネーレッスン

つみたてNISAに学ぶ!

長期・積立・分散投資



つみたてNISAとは

2018年1月からスタートした「つみたてNISA」。年間40万円まで、最長20年間の長期にわたって運用を行うことができ、その間の収益に対しては非課税、という制度です。通常であれば、売却益や普通分配金などには20.315%の税金がかかりますから、例えば、10万円の売却益がでて、手元に残るのは8万円弱です。ところが、NISA口座は非課税なので、10万円の売却益がそのまま手元に残ります。かなりお得です。

すでに、2014年にスタートしている「一般NISA」では、年間120万円を運用できますが、非課税の期間が5年間です。一方、今年スタートした「つみたてNISA」は最終の積み立て年度が2037年、そこからさらに20年間非課税で持ち続けることができます。つみたてNISAは、より長期にわたっての運用が可能になったわけです。

一般NISAとつみたてNISA

- 一般NISA**
- 年間投資上限: 120万円
 - 非課税で持ち続けられる期間: 5年間
 - 非課税枠: 600万円 (120万円×5年)
 - 最終の積立年度: 2023年

- つみたてNISA**
- 年間投資上限: 40万円
 - 非課税で持ち続けられる期間: 20年間
 - 非課税枠: 800万円 (40万円×20年)
 - 最終の積立年度: 2037年



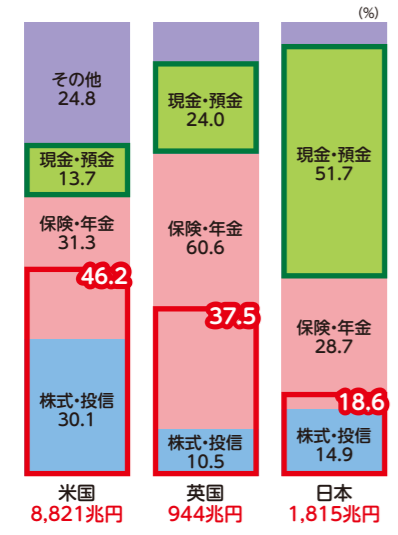
データでチェックしよう 各国の家計金融資産

- ポイント**
- ① 日本は現預金の保有比率が高い
 - ② 米英は株式や投資信託の保有比率が高い
 - ③ 米英は運用益で金融資産が増加している

投資後進国、日本

アメリカでは学校教育の力、リキラムにお金のこと、投資のことなどが組み込まれており、多くの人が若い時から運用を行っています。日本でも、2005年を「経済教育元年」と位置付け、経済・金融教育が増えています。

米国・英国・日本の個人の金融資産構成比(2016年末)

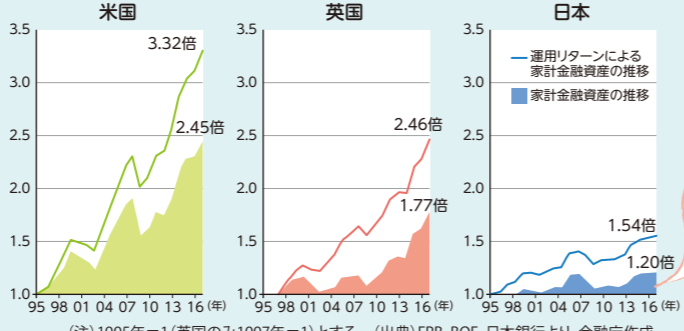


□の部分は間接保有を含む株式・投信投資割合
(注)1ドル=116.9円、1ポンド=144.2円の為替レートにて換算
(出典)FRB、BOE、日本銀行より、金融庁作成

運用リターンによる金融資産の増加

1995年(英国は1997年)を1とした場合の家計金融資産の伸びは、英国は2.46倍、日本は1.20倍、アメリカは1.77倍に成長しました。なかなかのものです。

家計金融資産の推移



運用リターンに大きな差が!

この大きな違いは、何によって生じたのでしょうか? 運用リターンに注目して日本と米英の違いを見てみましょう。この21年間でイギリス

は1.77倍、アメリカは2.45倍にまで運用によるリターンが伸びています。ところが、日本の家計では1.20倍の伸びにとどまっています。日本の家計では株式や投資信託の保有率が低いため、運用による増加がほとんどみられなかったのです。この差が、金融資産増加率の違いの最も大きな要因なのです。